

熊本市の日本語教育 —クラス担任との連携を図りながら—

武田 東史 (熊本市立黒髪小学校)

1. 熊本市の日本語教育の現状と課題

熊本市には、日本語指導のセンター校が小学校1校、中学校1校ある。センター校の役割は、児童生徒が、日本の学校に慣れ、日本語を早く習得することである。現在、日本語指導を受ける児童生徒は、小学校14校に32名、中学校7校に7名散在している。つながりのある国は、中国、インドネシア、フィリピンなど9カ国となっている。指導者は、小学校センター校に4名、中学校センター校に2名、指導協力員4名である。センター校以外の児童生徒は、小中学校のセンター校から指導者を派遣して、基本的には1対1で授業を行っている。

多くの児童生徒は、日本語が話せない状態で来日する。日本語が話せないので、コミュニケーションがとれず、クラス担任はとても困っている。

2. 実践の目的

日本語指導者がクラス担任との連携を工夫すれば、児童生徒の日本での生活適応を助け、順調な日本語習得につながると考え、本実践を行った。

3. 実践内容

2つの方法で、日本語指導者とクラス担任との連携を図っている。1つ目は、日常的に行ったり、学期末に行ったりするクラス担任とのやりとりである。2つ目は、行事や研修を通して、日本語教育や日本語指導を受けている児童生徒の理解を図っている。

3.1 日常的、学期末に行うクラス担任との連携

クラス担任は、毎日とても忙しい。私たち日本語指導者も、学校を移動するので、なかなかクラス担任とゆっくり話す時間はとれない。そこで、連絡ノートを活用して、今日授業で勉強した内容や子どもの様子を知らせる。クラス担任からは、学級での様子や子どもが日本語で話した言葉などを書いてもらう。そのノートをもとに、お互いに日本語の進捗を確認したり、話すときの話題に使ったりできる。

また、学期末には、「指導の記録」を在籍校へ送付する。授業時数や学習内容、頑張ったことや成長した姿を書き、在籍校の管理職、クラス担任、保護者に見ていただき、クラス担任だけでなく管理職にも日本語指導に理解していただけるようにしている。

3.2 行事、研修会でのクラス担任との連携

3.2.1 日本語教室開講式

5月初旬に、日本語教室開講式を行っている。児童生徒、在籍校管理職、クラス担任に集ってもらい、一部では、先生の紹介や児童生徒の自己紹介、日本語教室行事紹介などを行う。二部では、小学生、中学生、保護者、クラス担任に分かれる。クラス担任にお願いしたことは、①子ども達が経験する壁への理解、②仲間作り ③保護者との連携 ④学校全体での支援である。中学生の進路では、高校受験の際の特別措置の内容などを伝える。

3.2.2 日本語指導者と学級担任との連絡会

7月後半にクラス担任に集ってもらい、研修会を開催している。今年度は、研修Ⅰでは、異文化体験として「もしも、中国の学校に転校したら。」というテーマで、中国語の授業を受けてもらった。次に「日本語を学ぶ児童生徒の理解のために」というテーマで、熊本県立大学の馬場良二先生に講演をしていただいた。研修Ⅱでは、班別協議で、在籍校での支援および課題について、それぞれの担任が抱えている悩みを話し合った。お互いにアドバイスしたり、アイデアを出したり、活発な協議が行われた。

3.2.3 日本語教室閉講式、発表会

2月後半に児童生徒、在籍校管理職、クラス担任に集ってもらい、一部では、日本語を修了する中学3年生が日本での生活を振り返ったり、これからの夢を発表したりした。二部では、児童生徒が、それぞれの日本語のレベルにあった発表を行う。発表内容は、自己紹介、紙芝居、音読、母国の紹介、修学旅行の思い出などである。日本語の上達の素晴らしさやその頑張りを見てもらう。

4. 成果と課題

【成果】

- ・クラス担任との連絡ノートや指導の記録により、子どもの様子をお互いに把握できる。会って話すときも、連絡ノートに書かれていたことを話題として取り上げ、日本語指導者とクラス担任のコミュニケーションツールとして役立っている。
- ・日本語開講式では、クラスの子どもや他の学校の子どもの様子を見て、日本語教室の雰囲気を感じてもらった。分科会では、クラス担任として取り組んでほしい内容をお伝えすることにより、日本語を学んでいる子ども達への理解や指導につながっていることがアンケート結果などにより分かった。
- ・日本語指導者と学級担任との連絡会では、中国語で授業を受けてもらい、言葉が分からない子どもの気持ちを感じてもらった。馬場先生の講義で、子どもは言語環境の中に入ると自然に身につける力を持っていること、担任の役割として、子どもが安心して過ごせる場所を作ることなどが伝えられた。他の学校の先生からのアドバイスにより、普段悩んでいることや困っていること（学習支援として絵や実物を利用すること、仲間づくりとしてその子の母国の文化を伝えること、保護者との連携ではアプリ翻訳の使い方など）が解決できた。
- ・日本語教室閉講式、発表会で、クラス担任の子どもや他の学校の子どもの発表を聞いて、その成長や頑張りに先生方が感動されている。この行事を通して、日本語教室への理解や日本語を学んでいる子どもへのより一層のその子に寄り添った指導へとつながっていることがアンケート結果などにより分かった。

【課題】

- ・年度途中で外国から転校してくる子ども達もたくさんいる。クラス担任は、行事や研修に参加することなく、その子に対応することになる。新しくクラス担任になった先生へのサポートが必要となってくる。
- ・来日したばかりで、日本語でコミュニケーションがとれない子どものクラス担任は、とても悩みが多い。授業での自習内容、クラスでの仲間づくりなど、学年に応じた研究をしていかなければならない。